事例No.	2816
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	矢部　佳宏

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

故くて新しい価値の再発見・再構築と、クリエイターが集まる点→線→面のまちづくり

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　個人表彰



故くて新しい価値の再発見・再構築と、クリエイターが集まる点→線→面のまちづくり

矢部（やべ） 佳宏（よしひろ）氏

DATA

事　例　名：矢部佳宏（一般社団法人BOOT、西会津国際芸術村、NIPPONIA楢山集落）
所　在　地：福島県耶麻郡西会津町奥川大字高陽根字百目貫5900番地
連　絡　先：TEL 0241-47-3200
E-mail boot.common@gmail.com
ホームページ：https://www.boot-diversity.com/

取り組みの概要

福島県西会津町は、人口減少・高齢化が著しい過疎先進地である。同町出身の矢部氏は海外でランドスケープアーキテクトとして活躍していたが、東日本大震災を機に地域の消滅をより深刻に考えるようになり、2012年にUターン。自身の知識や経験を生かし、「西会津国際芸術村」の運営や古民家ホテル「NIPPONIA楢山集落」の開設などを手掛け、アートやクリエイティブ人材による“故くて新しい”里山の価値を発掘。クリエイターが集まる町として新たな人の流れを創出している。

評価された点

●自身の経験を生かし若い人たちが共感できるようなアーティスティックな事業を企画し、地域再生に尽力されている点を評価。
●ランドスケープの専門性を背景にスピード感をもって、従来はなかった活動を展開しており、未来に向けて大きな期待が持てる。
●地域の再生に向けて、若手のクリエイターが集う場を創出し、新たな流れを創出している点を評価。
●アートで賑わいを作りながら、空き店舗の活用、移住者の増加、雇用創出など、さまざまな側面で地域に貢献している。外部人材や企業を地元につなぎながら、新たな交流がたくさん生まれており、先進性と発展性が非常に高い、優れた活動である。
●アーティストの視点での土地の価値を、社会課題の解消に向けてマッチングしたり、行動することで新たな地域の価値創造を図っている点を評価。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　**2012年～**
・海外でランドスケープデザイナーをしていたが、東日本大震災をきっかけに帰郷。

2013年～

・海外での知見から、震災後の社会に新たな価値観を実装する必要性を感じる。
・地域の人が見過ごしていた故いものに新しい価値を見出す。

西会津国際芸術村の運営

・アートの視点を通じて里山の知恵や文化、土地の価値の再発見。
・クリエイターが集まり自己実現したくなるサポートを展開。
・来館者数を4倍以上に増加。




2015年～

・移住者の自己実現と社会課題をマッチングし、クリエイターが集まりやすい状況を整備。
・協力隊募集PR委託。
・移住センター委託。

地域おこし協力隊のサポート、移住センターの運営

・クリエイターによる魅力発信で移住者増。
・協力隊や移住者の自己実現をサポートすることで定着率アップ。



2017年～

・空き家創業補助金の創設。

クリエイティブ拠点ネットワーク構想

・空き家、古民家の改修による新たな価値づくり。
・クリエイターが関わりやすい拠点をつくり、新しい人の流れを創出。



2018年～

・故くて新しい価値を感じられるデザイン・アート体験を強化。
・古民家ホテル開業には農林水産省助成金を活用。

古民家の改修が多数進む

・古民家ホテル「NIPPONIA楢山集落」の開設。
・移住者や地域おこし協力隊が古民家を改修し起業。
・日本の田舎らしさのブランディング。



2021年～

次々と外部人材の協力者が現れ、さまざまなプロジェクトが発生

・地域内外の人材による共創の文化が生まれた。

今後の展望

・一次産業と一体となった地域社会モデルの再構築。
・住民主体による地域運営の実施。
・資源循環型社会の実装。

受賞者のコメント

東日本大震災以降、自分にできることを少しずつ増やしながら、ひたすら前に向かって走り続けてきました。この10年の間にできた町内外の多彩な人たちとのつながりとご尽力により、地域の未来を支える土壌が豊かになってきたと感じています。今後は、この土地の自然や風習・文化に潜む故くて新しい価値を活かし、人口減少に対応した地域経済や資源循環に多様性をもたらす社会モデルやライフスタイルを創造することで、町出身者も町に戻りたいと思うような機運を高め、消滅が間もないと言われる私の住む奥川郷の美しい風景を未来に誇りを持って受け継いでいきたいです。